

## 2) フェロモントラップによる斑点米カメムシ類発生状況調査

### (1) 目的

近年、斑点米カメムシ類を誘引するフェロモン剤を利用したトラップが開発され、発生予察に活用されている。平成19年度からは当センターでも設置しているが、フェロモントラップを予察に利用するためには設置地点が地域の発生量を反映していることが重要である。

そこで、斑点米カメムシ類による被害が見られる県央、県北各1地域(JA単位等)をモデルとし、管轄農業振興事務所と連携してフェロモントラップを利用した斑点米カメムシ類発生状況調査を実施し、発生予察に有望な設置地点を選定する。

### (2) 方法

#### 調査地域

県央 河内農業振興事務所管内(JAうつのみや)

県北 那須農業振興事務所管内(JAなすの)

#### 対象とする斑点米カメムシ類

ア.クモヘリカメムシ

イ.アカヒゲホソミドリカスミカメ

調査期間 平成21年6~7月

ただし、近隣の水稲の生育状況を勘案し各農業振興事務所と協議して設定する。

#### 設置カ所数及び設置地点

農業振興事務所一任。ただし、各5地点までは当センターでフェロモントラップ資材提供。

#### 調査方法

調査担当者の選定及び調査回数は農業振興事務所一任とするが、原則として月2回以上定期的に調査する。

### (3) 結果及び考察

本年は6市町35地点でフェロモントラップが設置された。そのうち、2市1町12地点でクモヘリカメムシ、3市1町12地点でアカヒゲホソミドリカスミカメのフェロモントラップへの誘殺が確認され、クモヘリカメムシは県央、アカヒゲホソミドリカスミカメは県北を中心に確認された。

斑点米カメムシの誘殺が確認された地点の中でも、誘殺数が多い地点は発生予察に有望と考えられる。また、17地点では誘殺が確認されなかったが、地域の斑点米発生状況を踏まえた発生の有無の判断が必要である。